

## 登山学校レポート(第8回講習)冬山シミュレーション講習

【福岡勤労者山岳会・田中敦典】

### ◎日程及び場所

12月10日(土)～11日(日) 阿蘇仙酔峡

県連登山学校の第8回目は、阿蘇仙酔峡で冬山シミュレーション講習が行われた。1日目は日差しも強く温かい中で、2日目は曇天の中少々風が冷たかったが12月なら当たり前という気候の中で、1月の冬山講習本番に向けて沢山のことを学ばせていただいた。

アイゼンやわかんについては、最初にバンドの末端処理や名前・左右のしるしをつけること等について説明があった。今回、実際に時間を測りながら着脱の練習をしたが、オーバーグローブを着けての着脱に手間取った。冬山ではどのような天候に見舞われるかわからない。常にオーバーグローブを着けたままで全てのことができるようになることが課題である。

テント生活については、設置場所、全員での整地、設営時強風に吹き飛ばされない工夫、入り口に掘る穴、最初に入る人の雪を皆で払ってやること等をしながら、一方で飲料水作成のために雪を取りに行く等、時間との闘いも含めてパーティ全員のチームワークがとても大切になる。冬山装備でたださえ荷物が多くなる状況の中で、快適に安全にテント生活が送れるように、テン場に着いてからポーッと立って見ていることが無いように、どのようなことをしなければならないかについて改めてシミュレーションして覚えておきたい。

アイゼン、ピッケルワークについては、1日目に歩き方や持ち方について基本的な説明を受け、2日目に実際にアイゼンを装着し、ピッケルを持って尾根を登った。ただ、ロープワークの方に気を取られ、スパッツにアイゼンひっかかないような歩き方や登り下りを意識したピッケル使用などが出来ていなかったのが課題である。アイゼン・ピッケルワークについて再度確認をし、本番の雪山ではある程度無意識にできるようにしておきたい。

ロープワークについては、1日目にコンティニューアスで登る時の余ったロープのセット方法を教えていただいた。2日目に受講生全員がロープにつながりながらコンティニューアスで尾根を登った。しかし、余ったロープのセットは1～2回行っただけでは覚えられないものではない。しかもオーバーグローブをしていると余計に上手くいかない。またコンティニューアスでロープを束ねて手に持って登る時、ロープを地面につけないように登ることが難しい。いずれも、事前の練習と本番での習熟が課題である。中途半端な理解と技術で、実際に雪山で誰かが滑落した時に瞬時に止めきれなければ、ロープにつながったまま一蓮托生である。それならコンテで登らない方が良いということになる。コンテとスタカットの切り替えの判断ができるようになればと思う。また、今回スタンディングアックスビレイを教えていただいた。その他のビレイについても次回の冬山講習で実際に行いながら理解と習熟を深め、これなら止められるという技術を身につけたい。次回の冬山講習でどこまで技術を身につけられるか、高い課題意識をもって臨みたいと思う。

